

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473800611
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘
事業所名	グループホーム 都筑の丘
訪問調査日	平成19年9月11日
評価確定日	平成19年10月30日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1473800611		
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム都筑の丘		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市川和町1705 (電話) 045 - 944 - 0056		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	平成19年10月30日

【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤5人, 非常勤 16人, 常勤換算21人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り(A棟は平屋、B棟は2階建て) 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有() 円	無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 300,000 円 無()	有りの場合 償却の有無	有() / 無()	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	6 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つづき病院、アーバンクリニック、真田皮フ科、服部歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、緑の残る2000坪の敷地に木造平屋と2階建ての2棟が建てられている。建物の内部は木の温もりがあり、居室は11.3㎡と広めである。建物の周囲には桃・栗・ゆずなどの木があり、四季が感じられる。また、隣接して畑があり、利用者はいちご・トマト・大根等、季節野菜の収穫を楽しみにしている。利用者の日常生活に園芸療法が自然に取り入れられている。自治会に加入し、地域行事への参加や保育園児の訪問など地域と交流している。また、防災訓練は地元消防団、近隣と連携して行っている。「家族が安心してくれる介護」を指向し、職員の質の向上のために、年間研修計画を立てOJTに取り組み、職員育成に努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は各ユニットともいつでも見れるように公表している。改善点は職員全員で検討しサービス向上に取り組む体制がある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の実施について職員に説明している。自己評価を通して、職員の連帯感を深めるために行事ごとに担当職員を決めて開催することなどの提案が検討され、実行に移されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>これまで運営推進会議は行っていない。開催を準備中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族との面会時に、毎月送付している報告書の内容や行事予定などについて情報交換している。また、事業所の開催行事に家族が参加した時に利用者の状況を確認し、要望などあれば聞き取り、運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。氏神様のお祭りや地域の夏祭りに、地域の商店や住民の方に席を確保してもらい参加している。地域の老人会、ボランティアの方が事業所内の花壇の手入れや草むしりを支援している。保育園児の訪問があり、利用者、職員は楽しみにしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域でその人らしく生活を継続できるように支援していくために、個人の尊重や地域との交流、家庭的な生活の支援など、5項目の事業所独自の理念を作成している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は名札の裏に5項目の理念を明記して携帯し、毎週月曜日の朝礼時に一緒に復唱している。2ヶ月に1度の社内研修時には介護事例の中で理念を確認している。理念は事務所に掲示し、パンフレットにも記載して家族に説明している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。氏神様のお祭りや地域の夏祭りに、地域の商店や住民の方に席を確保してもらい参加している。地域の老人会、ボランティアの方が事業所内の花壇の手入れや草むしりを支援している。保育園児の訪問があり、利用者、職員は楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の実施について職員に説明している。外部評価の結果は各ユニットともいつでも見れるように公表している。自己評価を通して、職員の連帯感を深めるために行事ごとに担当職員を決めて開催することなどの提案が検討され、実行に移されている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで運営推進会議は行っていない。開催を準備中である。		行政、地域、家族と連携して運営推進会議を開催し、さらなるサービス向上への取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から委託された介護教室を近隣の福祉会館で年2回開催している。区の窓口担当者が事業所を訪問するなど、相互に情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者毎に、1ヶ月分の生活記録を報告書として家族に毎月送っている。また、報告書と一緒に行事の写真や1ヶ月分の小遣い帳、来月の行事予定表を送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に報告書の内容や行事予定などについて情報交換している。また、事業所の行事に家族が参加した時に要望などあれば聞き取り、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年の経験がある職員を対象に各ユニット間で交換実習を行い、他のユニットの利用者と顔なじみの職員を増やして、異動時の利用者への影響を少なくしている。職員の離職による交代の際は引継ぎを丁寧に行い、他の職員で情報を共有しながら対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月1回、職員の社内研修を行っている。社外研修にも職員を積極的に参加させている。研修受講者は研修報告書で内容を報告している。 職員のOJTとして、事業所独自の評価項目での自己評価と管理者との面談を職員毎に実施し、職員のスキルアップにつなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市のグループホーム連絡会に加入し、勉強会へ参加したり他の事業者と交流し、相互に情報交換をしている。また、ケアネット都筑に参加し地域の同業者とも情報交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族から電話などで入所の相談があれば、管理者が事業所の状況を家族に説明し、本人に事業所を見学(10時～16時)してもらう。見学後、体験入所で本人の気持ちを確認しながら入居を決定している。入居後は家族の協力を得て、職員との馴染みの関係を深めながら支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>副理事長、管理者が同席して会議室で利用者と話し合いの機会を作っている。また、利用者へのアンケートを行い、事業所での暮らしについて意見を聞き、共に支え合っていく関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎月のケース会議で利用者の希望や意向などの把握に努めている。また、職員は利用者の表情や動作からも意向を読み取っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のケース会議でアセスメントを行って利用者毎に個別の介護計画を作成し、家族の承認を得ている。また、家族の面会時や行事に参加した時に情報交換を行い、家族からの要望や希望があれば介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは設定した期間に応じて行っている。利用者に状況の変化があれば変化にあわせて見直しを行い、家族にも内容を報告している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かすことを前向きに考えているが、地域の他事業所の状況や職員の状況から計画作成には至っていない。		恵まれた敷地環境や地域との連携を活かして、近隣の高齢者を対象にしたデイサービスを取り入れるなど事業所の多機能性を活かす取り組みを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アーバンクリニックと事業所で協力医療機関協定書を結んでいる。医師の往診と看護師の訪問が2週に1度ある。また、歯科医が毎週火曜日に治療に来ている。受診が必要な時は副理事長や管理者が付き添う場合もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入居する際に、家族と重度化への対応について特養など他の施設の見学・紹介も含めて説明している。ターミナルケアの対応も家族の意向を確認しながら前向きに考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護用品などを持ち歩く際は利用者の目に触れないよう配慮している。利用者の個人情報はキャビネットや引き出しに施錠して保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴などは利用者の希望に対応して支援している。朝の起床は利用者のペースに合わせており、職員は見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。おかずの中身を皆で話しながら職員と一緒に食事している。職員と一緒にデザートを食べに外出する時もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のニーズに合わせて入浴を支援している。午後8時まで入浴できる体制を作っている。入浴は見守りを基本として、職員は手を出しすぎないようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月間行事のなかで利用者の出番を作るようにしている。花見、七夕祭り、花火大会、餅つき大会など季節毎の行事を家族も参加して行っている。書道、絵手紙、切り絵などの創作活動をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調にあわせて散歩、畑の収穫、花壇の手入れなど外へ出るよう支援している。特養の車も借りて花見や紅葉見学のドライブに出かけたりしている。散歩に行きたがらない利用者は事業所内の畑に野菜取りに誘うなど外出を誘導している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況と安全に対する家族の希望から、玄関は必要により施錠している。家族には状況を説明し、同意を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防団と連携し近隣の協力を得て年に1度防災訓練を行っている。初期消火箱が事業所内に設置されている。また、水や非常食を備蓄している。防災訓練の後に参加者に事業所を見学してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、契約している栄養士が利用者の栄養バランスに配慮しながら作成している。食事量や水分摂取量は、利用者毎に記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットとも木の温もりを感じる共用空間で、居間は間取りも広い。テーブルにはリンドウなど季節の花があり、壁には利用者が創作したイチゴ、栗など季節を反映した絵手紙や切り絵を飾り、利用者が家庭的な空間で居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた三面鏡やタンス、大切にしている家族の写真や位牌などが持ち込まれ、利用者個々が過ごしやすい居住空間になっている。壁は明るく落ち着いた色のある色で床材も心地よい。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 都筑の丘
(ユニット名)	あじさい棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区川和町1705
記入者名 (管理者)	八木悦子
記入日	平成 19年 8月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしく生きることを支援するため5つの理念を持ち常に意識するようにしている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の名札の裏に明記し、常に確認できるようにしている。毎週月曜日の朝礼時に復唱している。研修時には必ず理念の理解をその時の事例を使い検討している。理念を、絵に描いた餅にならないように努力している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居前の見学の時点から、お話しをしている。契約時にはより詳しく説明をしている。法人のパンフレットを地域の医療関係、商店に置かせてもらっている。地域の住民には、日頃の職員の対応から理解していただけるよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の通勤時、散歩時には、すすんで挨拶をするようにしている。地域の老人会、ボランティアの方々が、花壇の手入れ、草むしりなど協力してくれている。ご近所の花が咲くと声を掛けてくださり、散歩を兼ねて寄らせていただいている。ホームでの餅つきには、協力・参加していただいている。保育園の園児の訪問を入居者、職員ともども楽しみにしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、氏神様のお祭り、地域の夏祭りなども、地域の商店、住民の方の協力により楽しく参加している。選挙の投票にも行くことにより、地域の方とコミュニケーションをとっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、利用者および利用者代理人の権利(第10条)、利用者または利用者代理人の義務(第13条)、利用者の契約解除(第14条)を解りやすく説明し、納得し同意を得て契約をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>まず、利用者の話を良く聴き、ホーム長が対応できるようにしている。それでも解決出来ないときは、施設長が対応している。利用者同士が集まり話し合う機会も持っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1か月分の記録を、報告書としてご家族に送付している。また、行事等の写真と1ヶ月分のお小遣い帳、来月の行事予定表も同封している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内での担当窓口(施設長)、公的機関の窓口は重要事項説明書に明記している。苦情が出た場合は速やかに対応をしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週木曜日に、運営会議、月に2回火曜日に全体会議を行い、その都度発生した問題について検討している。その際職員の意見、悩み、提案等も聞く機会を設けている。職員の声を大切に反映できるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日頃より、職員の協力により、勤務の調整はできている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動等の場合は、入居者に気持ちを最優先で考慮している。日頃より、職場内の交換実習を行い、他のユニットの入居者とも顔なじみになっているので、異動によるダメージは少ないと思われる。離職による交代の際は、引継ぎを丁寧にし入居者の混乱を防いでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>年間研修スケジュールをたてOJT、OFF OJTに積極的に取り組んでいる。休日の職員の研修出席時は出勤としている。また、SDSの職員には勤務の変更等を優先するなどして、法人として協力している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の勉強会、ケアネット都筑の勉強会に参加して地域の同業者と交流をもっている。また、交換実習を行い他のホームでの活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>無理のないローテーションを組み、職員間の連携をはかるため、年に数回親睦会をおこなっている。職場内の悩み、ストレスなどを相談できる外部の相談機関を紹介している。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実績を認め、パート社員から正職員に登用している。SDSの研修受講の際は、勤務の変更、介護福祉受験時にはバックアップしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から聞き取れる場合は、話を聴く機会を設け傾聴しているが、日々の業務の中での観察で対応できるようにしている。特に入所された初期は、不安が多くなるので、職員もより一層の見守りをしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者の視点にたつて家族の気付き、思いを遠慮なく伝えてほしいことを話し、いつでも気軽に相談できるような環境を作っている。納得できるまで見学を受け入れ、その都度生活相談員が対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者を観察し、今、何が必要なのか、今困っていることは何かを意識しながら、どのように支援したらよいのかを見極められるよう努力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学後、体験入所をしていただき本人の気持ちを一番に考え、本人が納得された上での入所としている。入所の初期にはご家族に協力していただいている。職員も他の入居者と馴染むことができるような環境作りを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者同士が話し合う機会を作り、それぞれの思い、ホーム、職員に対する希望などをお聞きし、改善にむけている。戦争体験、昔の暮らし方、調理方法などを教えていただいている。生活の中で役割分担をすることで、入居者同士が支えあっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前に、ご家族には家族とホームの連携、協力がないと良い支援ができない事をお話している。ケアプラン作成時には、家族の思い、意見を反映させている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの入居者と家族の関係を把握し、個別に対応している。家族に送付している記録も家族の負担にならず、読みやすく、理解しやすい書式にしている。記録を読んでいただくことにより日々の生活の様子、思いを理解していただき、よりよい家族関係作りの支援となっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごされてきた環境を大切に、家族、友人の訪問、外出はとても大事と考えている。手紙の代筆をしたり、文面の相談なども職員も一緒に考えながら支援している。美容院、図書館、いきつけの店なども家族の協力を 得て支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来る人が出来ない人を自然にサポートしている姿が見られる。お互いにかばいあいながら生活している。たまに口論になることもあるが、それも日常生活の中で必然的に起こる事と捉える程度までは、静観しているが、頃合を見計らい間にはいるようにしている。また、孤立しがちな入居者が参加しやすい場面を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ該当者なし。今後出た場合は状況により、その後の生活の様子をお聞きし、相談にのれるようにしたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向が表現できる人にはコミュニケーションをとりながら把握できるように努めている。困難な方の場合は「今、何をしたいのか、何をしたいのか」常に入居者の目線で考えるようにしている。ケース会議でとりあげ職員全体で考察してみる。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族を含めたカンファレンスを密に行い、これまでの生活歴や暮らし方等を細かくアセスメントをしている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の過ごし方、心身の状態は業務日誌に記録され、担当の職員は必ず目を通し、一人ひとりの入居者の様子を把握している。また、業務の引継ぎ時的確に行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの援助目標を把握しながら、達成できるように支援している。本人、家族、職員、医療機関との連携を密にとりながら情報を共有しそれぞれの専門職の意見を反映したプランを作成している。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは設定した期間に応じて見直しはしているが、それ以前に状況の変化にあわせ対応している。その際は家族に報告、連絡している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人用の記録(家族に送付している報告書)、連絡帳に入居者の情報を記入し共有している。また、記録からみえてくる入居者の状態の変化を介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの運営なので多機能性は備えていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	書道、切り絵、絵手紙、マジック、音楽会等地域のボランティアの協力により入居者と職員が楽しい時を共有することができる。地域の消防団の協力による避難訓練、保育園児との交流、中学生のグループホーム体験学習など地域との協働しながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者によりケアマネが担当している場合は連携をとっている。福祉用具を利用する場合はショップの福祉用具専門相談員に来棟してもらい相談をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では協働する必要性がない。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科、皮膚科、精神科、歯科の往診を受けている。また、その際に医師に相談をして適切な医療が受けられるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターの往診の際、職員、入居者自身からも相談をすることができる。相談しやすい雰囲気を作っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームドクターの看護職員と往診、受診の際に相談ができるようにしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症に理解のある医療機関で入院を受け入れてもらっている。入院時には家族、医療関係と連携を密にとっている。また、職員が面会できる場合は精神的なサポートをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特別養護老人ホームの申し込み、有料老人ホームの見学をしてもらうように、入居時から説明をしている。ホームドクターの定期的な往診や家族の思いを尊重して、ワーカー会議で方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状ではまだ終末期の支援をないが、そうなったとき残された日々を入居者、家族がよりよく過ごせるようかかりつけのDr.とともに、チームとしての支援をしていきたいと思っている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから他の居所に移る際は介護サマリーを作成したり、よりきめの細かいアセスメント表を作成し、移動した新しい居所の職員が入居者の日常生活が理解できるようにする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助後の声掛け、排泄物の処理等他の入居者にはわからないように配慮している。個人情報が入っているキャビネット、引き出し等は鍵をとりつけている。記録、チェック表などは目に付くところにはおかないようにしている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	出来る限り自分で決められるような環境を作っている。(行事、散歩などの参加の自由)また、入浴、食事等も希望に沿うように支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その日の体調、気分などを優先し、ひとり、ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず入居者の希望により対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床後の洗面、整容を行うようにし、服装も必ず日常着に着替えている。理容・美容は訪問理容院によるヘアカット、ヘアダイなどを行っている。希望に応じて家族がいきつけの美容院に連れて行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に食事作り、準備、配膳、片付けなどを出来る範囲で行っている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現状飲酒希望の入居者はいない。飲み物、おやつは入居者の希望のものを取り入れている。煙草は入居時に本人、家族に安全確保のため禁煙であることを説明し了解を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をもとにし、それぞれの排泄パターンをつかみ、対応することにより、自然な排泄ができるように支援している。散歩や動くことにより気持ちよく排便ができるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にあわせ入浴できるようにしている。夜間20時まで入浴できる体制を作っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して安楽な状態で休息がとれるよう職員が見守り、声掛けを行って対応している。日中は出来る限り余暇活動、散歩などに参加し、夜間良眠がとれるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出番があるように、余暇活動、手伝いなどの役割分担をしてホームでの生活が楽しめるよう支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本来は入居者自身で金銭の管理ができればよいのだが、認知症であるという観点から金銭は預からざるを得ない状況である。その際本人、家族にはお話をし納得してもらっている。外出の際などには買い物をする機会を作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や入居者の希望にあわせて、毎月の外出行事を企画している。その日の天候にあわせ散歩、畑の収穫、花壇の手入れなどもおこなっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人個人の対応は家族にいただいている。ユニットとしては入居者の意見を聞き安全性、経済性などを考慮しながらできるだけ外出できるように支援している。また、入居者の日頃の思いを家族に伝えることにより実現につながることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話もその都度希望に沿うように柔軟な対応をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも遠慮なく訪問できるよう、職員が対応している。他入居者にも遠慮なく過ごす事ができるような環境づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアに取り組んでいる。転落防止のためのベットのサイドレールを使用する場合は家族に説明し同意を得てからにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要に応じ施錠をおこなっているが、家族には理由を説明し同意を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常時、入居者が視野に入る位置で業務をおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の安全を常に留意して、危険であると思われる、顔そりの剃刀ハサミ、ハリなどの裁縫道具はお預かりして希望があればお渡ししている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態に沿った事故防止策をケース会議等で話し合っている。些細なことでもヒヤリハット・事故報告書を作成し、再発防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	社内研修で消防署の協力により、応急手当の訓練を行っている。また緊急マニュアルを作成し、緊急時すぐに見ることが出来るようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会に加入、地域の防災訓練と、地域の消防団による独自の避難訓練をおこなっている。近隣の商店街や警察、消防署等と連携している。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明時や、家族の訪問時、また、リスクが予想される状況が出てきた時はその都度家族に説明をしている。常に安全第一で安心した生活ができるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行い、入居者の体調の変化や異常がわかるようにしている。変化が見られたり、気付いた時はすぐに情報を共有することになっている。いくつかの緊急時を想定したマニュアルが作成されている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用している薬の名称、副作用がすぐわかるように、最新の薬情書をファイルしてある。薬の変更、量の増減などのあった時はより細かい観察をし記録に残している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に記入することにより、一人ひとりの排泄サイクルを把握している。散歩、体操、手伝い等を行う事で適度な運動を取り入れている。食事野菜を多く取り入れながら、水分補給は定時だけでなく、飲みたいときに飲めるようにしている。また、医師の指示により、入居者一人ひとりの状態にあわせた便秘薬を処方されている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	社内研修で歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け、毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の栄養士による、バランスのとれた献立を、一人ひとりの状態にあわせ提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが作成されている。日頃より手洗い、うがいは励行することを徹底している。インフルエンザ流行時には、面会者にも協力してもらっている。職員には健康管理には注意するようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、布巾、おしぼり等は、その都度消毒をしている。食材はその都度使いきるようにし残さないようにしている。調理に入る前の手荒い、消毒をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前、内それぞれに植物、椅子を置き、階段には絵画をかけてあり、訪問者から喜ばれている。建物周辺には、花壇、畑があり訪問者も一緒に楽しむことができるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、入居者が作成した、切り絵、書道などの作品を展示している。また、各月の行事担当者がそれぞれの季節を考慮しながら、ディスプレイをしている。室内の温度、照明、テレビの音量なども		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり入居者同士が自由に過ごせるようになっている。一人になれる空間でもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使っていた使い慣れた家具を持参していただいている。必要に応じ使いやすい、家具や食器なども購入している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓はご自分で開閉されている方が多いが、そうでない方にはお聞きしながらしている。居室の温度調節もそれぞれの体調にあわせコントロールをこまめにおこなっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・リビング等に手摺を設置している。洗面所・玄関・台所などには滑り止めを設置して安全な生活が送れるようにしている。車椅子、歩行が困難な入居者のためにはエレベーターを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物の取り込み、たたみ、分類などは積極的に行っている。トイレのドアと居室のドアを間違えないように表示している。居室のドアにも本人のイラストをはっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ、テラス、それぞれの棟の花壇、畑があり、天気の良い日は外でお茶を飲んだり、おしゃべりをしている。季節の野菜、果物なども収穫し楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と 利用者の2/3くらいが 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="radio"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
		<input type="radio"/>	少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	あまり増えていない
		<input type="radio"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が安心して働くことのできる環境づくりをめざしています。その目的は①職員が目的をもっていきいきと楽しく働ける職場にしたい。②悩み、問題を一人で抱え込まないでお互いに相談できるような職員間の信頼関係をつくりたい。③職員の定着により、入居者さんとそのご家族が安心と信頼していただけるようにしたい。の3点に絞って実現をめざしています。目的達成のための方法として、自分自身を評価することによりサービスの質の向上、自分自身の振り返りができ、問題が明確になるということで、自己評価を実施いたしました。その結果を、職員一人ひとりとアセスメントをし、業務に対する思い、悩み、法人への希望、将来的なことなどを話し合うことができました。まだ、途中ではありますが、今後も充実した研修体制をととのえながら「働きやすい職場の環境作り」目指していきたいと思っています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 都筑の丘
(ユニット名)	みずき棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区川和町1705
記入者名 (管理者)	八木 悦子
記入日	平成 19年 8月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		自分らしく生きることを支援する為5つの理念を持ち常に意識するようにしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員の名札の裏に明記し、常に確認できるようにしている。毎週月曜日の朝礼時に復唱している。研修時には必ず理念の理解をその時の事例を使い検討している。理念を絵に書いて餅にならないように努力している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ご家族には入居前の見学の時点から、お話ししている。契約時にはより詳しく説明している。法人のパンフレットを地域の医療関係、商店に置かせてもらっている。地域の住民には日頃の職員の対応から理解していただけるように努力している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		職員の通勤時、散歩時には、すすんで挨拶をするようにしている。地域の老人会、ボランティアの方々が花壇の手入れ、草むしりなど協力してくれている。ご近所の花が咲くと声をかけてくださり、散歩を兼ねて寄らせていただいている。ホームでの餅つきには、協力・参加をいただいている。保育園の園児の訪問を職員・入居者ともども楽しみにしている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会に加入し、氏神様のお祭り、地域の夏祭りなども、地域の商店、住民の方の協力により楽しく参加している。選挙の投票に行くことにより地域の方とコミュニケーションをとっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	横浜市の委託事業の一環として、地域住民の方を対象とした「介護予防」の為に介護教室を開催している。内容はその時に合った問題をテーマにし、地域住民、職員が一体となって学んでいる。また近隣住民の事業所にも声をかけ、参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今までの評価を活かし、より向上できるように、取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、地域の方にグループホームを理解していただける事から取り組んでいきたい。地域住民の声を参考にしながら、今後のサービスの質の向上を目指したい。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主体の研修、勉強会にも積極的に参加している。それ以外の、横浜高齢者GH連絡会、神奈川認知症高齢者GH協議会、ケアネット都筑等の研修にも参加することより、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年の地域の介護予防教室で「成年後見制度って何？」をテーマに職員も参加し、学ぶ機会を持つ事ができた。私どものグループホームの場合は、家族権利擁護に該当する入居者はいまままでいなかったが今後、必要な入居者には活用していきたい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的なものだけでなく、精神的な虐待(言葉の暴力)も絶対行ってはいけないことを、研修時に徹底している。虐待防止の為にマニュアルを各棟に置いてある。職員同士で入居者の身体の状態なども確認しあい、傷などが発見された場合は原因を究明する事にしている。言葉の暴力に関してはお互いに注意しあっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、利用者及び利用者代理人の権利(第10条)、利用者また利用者代理人の義務(第13条)、利用者の契約解除(第14条)を解りやすく説明し、納得し同意を得て契約をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>まず、利用者の話を良く聴き、ホーム長が対応できるようにしている。それでも解決できない時は、施設長が対応している。利用者同士が集まり話し合う機会も持っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月分の記録を、報告書としてご家族に送付している。また、行事等の写真と1ヶ月分のお小遣い帳、来月の行事予定表も同封している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内での担当窓口(施設長)、公的機関の窓口は重要事項説明書に明記している。苦情が出た場合は速やかに対応している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週木曜日に、運営会議、月に2回火曜日に全体会議を行い、その都度発生した問題について検討している。その際職員の意見、悩み、提案なども聞く機会を設けている。職員の声を大切に反映できるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日頃より、職員の協力により、勤務の調整ができています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動時の場合は、入居者の気持ちを最優先で考慮している。日頃より、職場内の交換実習を行い、他のユニットの入居者と顔馴染みになっているので、異動によるダメージは少ないと思われる。離職による交代の際は、引継ぎを丁寧にして入居者の混乱を防いでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修スケジュールをたてOJT、OFF、OJTに積極的に取り組んでいる。休日の職員の研修出席時には出勤としている。また、SDSの職員には勤務の変更等を優先するなどして、法人として協力している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の勉強会、ケアネット都筑の勉強会に参加して地域の同業者と交流をもっている。また、交換実習を行い他のホームでの活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>無理のないローテーションを組み、職員間の連携をはかるため、年に数回親睦会をおこなっている。職場内の悩み、ストレスなどを相談できる外部の相談機関を紹介している。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実績を認め、パート社員から正職員に登用している。SDSの研修受講の際は、勤務の変更、介護福祉受験時にはバックアップしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から聞き取れる場合は、話を聴く機会を設け傾聴しているが、日々の業務の中での観察で対応できるようにしている。特に入所された初期は、不安が多くなるので、職員もより一層の見守りをしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者の視点にたつて家族の気付き、思いを遠慮なく伝えてほしいことを話し、いつでも気軽に相談できるような環境を作っている。納得できるまで見学を受け入れ、その都度生活相談員が対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者を観察し、今、何が必要なのか、今困っていることは何かを意識しながら、どのように支援したらよいかを見極められるよう努力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学後、体験入所をしていただき本人の気持ちを一番に考え、本人が納得された上での入所としている。入所の初期にはご家族に協力していただいている。職員も他の入居者と馴染むことができるような環境作りを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者同士が話し合う機会を作り、それぞれの思い、ホーム、職員に対する希望などをお聞きし、改善にむけている。戦争体験、昔の暮らし方、調理方法などを教えていただいている。生活の中で役割分担をすることで、入居者同士が支えあっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前に家族と連携が出来ないと良い介護ができないと説明をしている。またケアプラン説明時に密に話し合いをして、ご家族の意見をケアプランに反映させている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に毎日の生活の様子を記録した報告書を送付している。また、必要に応じて近況報告をして、ご家族が本人の希望と生活状態を確認できるようにし、ご家族が疑問を持った際に説明ができるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	より良い生活作りの為、家族や友人が訪問・電話・外出を出来るように働きかけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が自然に、散歩や食事の際に、職員と一緒に手を引いたりなどをして他入居者を気遣われる。また他入居者の洗濯物を居室まで持って行くなど、入居者同士が互いに助け合えるように心がけている。また入居者同士が言い争えばすぐに介入してストレスにならないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当者はいないが、特養に入所する際に、介護サマリーを作成・提出している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難の際は、毎月ケース会議を開き、入居者の一人ひとりのアセスメントを行い、希望や意向などの把握に努めている。また家族の意見を聞きケアプランに反映させている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族を含めたカンファレンスを密に行い、これまでの生活歴や暮らし方等を細かくアセスメントをしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的な医師の往診で把握している。また毎日の申し送りで一日の状態を把握してケアプランに記載している、		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が見えられた時などに、家族の意見を伺っている。伺った意見の内容をケアプランに反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは設定した期間に応じて見直しはしているが、それ以前に状況の変化にあわせ対応している。その際は家族に報告、連絡している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、見守りを行い、入居者の状態を報告書・チェック表などに記載して確認がいつでもでき、情報が共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの運営なので多機能性は備えていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	七夕などに保育園と協力して交流を図っている。また、地元の消防団と連携している。獅子舞やどんど焼きなどの文化とも協力している。中学校の体験学習に協力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者によりケアマネが担当している場合は連携を取っている。福祉用具を利用する際は店の福祉用具専門員に来棟してもらい相談を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では協働する必要性がない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的内科・皮膚科・精神科・歯科の往診がある。また、その際に医師に相談などをして適切な医療が受けられるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	リハパンを持ち歩く際も他入居者に見えぬように隠して持ち歩くなどして、入居者のプライバシーが損なわないようにしている。個人情報が入っているキャビネット、引き出し等は鍵をとりつけている。記録、チェック表などは目に付くところにはおかないようにしている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外食時のメニュー選び、散歩に行くか、行かないか・行事への参加、不参加など、日々の日常の中で自己決定の場面を取り入れている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・入浴の希望があれば散歩・入浴が出来るように、希望にそように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	状態に合わせて、起床後に髪型や服装を整えるように対応している。また、訪問理容院でパーマ・カットなどを行っている。希望に応じて家族が本人の望む店に行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が職員と一緒に、食事準備や後片付けを行っている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、飲み物、おやつ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。煙草は禁煙である事を入居時に説明し賛同を受けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、入居者一人ひとりの状態に合わせてリハビリパンツ等使用している。また、散歩・体操等適度な運動を取り入れたりして、気持ちのよい排泄が出来るように支援している。また、医師の指示のもと入居者一人ひとりの状態合わせた便秘薬が処方されている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のニーズにあわせ入浴できるようにしている。夜間20時まで入浴できる体制を作っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安全第一を考慮して、入居者の状態に合わせて休息が出来るように声掛け・見守り・居室誘導を行っている。また、日中に体操や余暇活動を行い夜間に良眠できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者がご自分の出番があるように、余暇活動などを日常生活の中に取り入れている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態に合わせて、金銭の管理を行っている。また外出行事の中で、嗜好品を購入する機会を作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や入居者の希望に合わせて、毎月外出行事を取り入れて楽しく過ごせるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば、ご家族と一緒に墓参りなどの外出が出来るようにご家族と連携して対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、その都度対応している。また、入居者が書かれた絵手紙をご家族に郵送している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるように明るく笑顔で迎えている。また、ご家族との会話の中でより良い関係を構築できるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、転落防止の為、ご家族の許可を得て、ベッドの柵を取り付けている。身体拘束についてのマニュアルがある。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要に応じて施錠・開錠を行っている。その事はご家族にも説明を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時見守りを行い、調理や配膳の際なども入居者の様子が分かる場所で行うよう心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の安全を充分に考慮して、裁縫道具・ハサミ・ホチキス等は希望があればお渡しする。それ以外の時は、職員室にてお預かりして保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態に合わせた事故防止をケース会議にて話し合っている。また、ヒヤリハット・事故報告書を作成して再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	社内研修で消防署の職員を呼んで、応急手当を行えるように学び。また、緊急対応マニュアルが作成されており、職員室においてある。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会に介入し防災訓練を行っている。また近隣の商店街や警察・消防団・消防署等と連携・協力をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランの説明時やご家族の訪問時等にご家族に説明している。またケース会議にて対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、血圧・体温を測定して、入居者一人ひとりの体調の変化や異常が分かるようにしている。また気付いた際はすぐ様情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬している薬の名称・副作用がすぐに分かるように、最新の薬情書のコピーをファイルにまとめている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、入居者一人ひとりの状態に合わせてリハビリパンツ等使用している。また、散歩・体操等適度な運動を取り入れたりして、気持ちのよい排泄が出来るように支援している。また、医師の指示のもと入居者一人ひとりの状態合わせた便秘薬が処方されている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行うように声掛け・介助を行っている。また、服部歯科の口腔衛生を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養のバランスを考えており、入居者の状態に合わせて、刻み・お粥・盛り付け量の加減等の対応をしている。また、その人に合った食器を使用している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時の必須情報として実行している。また、毎年インフルエンザの予防接種を行っている。日頃より手洗い、うがいは励行することを徹底している。インフルエンザ流行時には、面会者にも協力してもらっている。職員には健康管理には注意するようにしている。感染症予防のマニュアルがある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、用具を消毒・洗濯・掃除をしている。また調理前は必ず手洗い・消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花鉢を置き、施設周辺には花壇や畑を作り親しみやすく、安心して出入りが出来るようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、入居者が作成した絵手紙・切り絵等の季節に合わせ物を飾り、家庭的で居心地の良く過ごせるようにしている。また、職員がテレビの音量・照明を常時、適度に調節している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者とリビングでテレビをご覧になったり、お話しが出来る。また、リビングにはソファがあり、一人になれる空間もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持参・使用している。また使いやすい家具・食器を新しく購入している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	希望がきかれた時、掃除などの際、定期的に窓を開け換気を行っている。また、定期的・希望が聞かれた時に、冷暖房の確認をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ等に手摺りを設置している。また洗面所・玄関・台所などに滑り止めを設置して安全に生活が送れるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が分かりやすいように、簡単な貼り紙をする事によって混乱や失敗を防いでいる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス・藤棚・畑があり、お天気の際は、そこでお茶をのんだり、季節の野菜・果物を収穫する事が出来る。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一同が、入居者とご家族が安心・信頼してグループホームで生活していただけるように日々勤めてる。その中で餅つきや敬老の日、運動会などの行事の際は、必ずご家族をお呼びしている。その際には入居者だけが楽しむのではなく、ご家族も一緒に楽しむ事ができるように職員が務めている。また、職員とご家族が話し合いをするだけでなく、ご家族同士がお互いに情報交換などの話し合いができるようにして、お互いの信頼関係が今よりも良いものに構築できるよう目指している。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 都筑の丘
(ユニット名)	やまぶき棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区川和町1705
記入者名 (管理者)	八木 悦子
記入日	平成 19年 8月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		介護教室を開催して取り組んでいる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員が希望する研修プログラムの実践を行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		一般家庭における介護に関わる相談にも常にのる体勢を整えている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	お年寄りを中心にした講習会を実施し、その時期の生活に即した内容で地域の治安維持に貢献している。		悪徳リフォーム業者や詐欺の手口を紹介し、暮らしのなかでの相談にものれる環境をつくっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所の役割は、職員、利用者(ご家族含め)、地域との繋がりと全てのバランスを考慮しなければいけない事を、講習、OJTにて徹底周知をはかり、研鑽に励んでいる。		社内研修、外部研修、自己評価表(OJT)
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月二回実施し、各棟のホーム長から上がってきた内容、ご家族からくるニーズも含め、利用者の生活をより良い方向へむける努力に邁進している。		毎月4回の運営会議の実施。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者同士の会合をもち、普段言わない事を含め話し合う機会を設けている。また個人(入居者)で、書いて頂く形式のアンケートを行ない、ここでの暮らしについて意見を頂いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前にご家族へ、家族とホーム間で連携がとれていないと、良い介護は出来ないと、お話ししている。またケアプランの説明の時に、ご家族の意見をケアプランに反映させている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	報告書(入居者個人の毎日の記録を一ヶ月まとめ記録したものを)を送り必要に応じてお電話で近況報告を行ない、ご家族が疑問に感じた事には直ぐに対応できるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に送付された手紙を職員と一緒に書いて書き、投函する付き添いをしている。また電話を頂いたりしたおりは、ご本人に直接取り次ぎ関係が断たれないよう配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気持ちよくお付き合いできるよう、見守りをし口論にならないよう時折、間に入り対応している。また、孤立しがちな入居者に対し協調できるように場面を設けて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された入居者に対して、こちらから連絡をとり、ここを出られた後のご家族のケアと今後の相談にも自発的にのり、ホームで出来る事であれば対応したり、また必要に応じて情報を提供するなどの配慮をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接、ご本人の意思を伺う機会を設けている。またご本人の意向が確認出来ない場合には、以前の生活に沿った内容や、入居前に実施したアセスメントを基本に考慮している。また、ご本人の意向が、ご家族とは異なったもの(ご本人の意向に沿うと寝たきりになってしまう等)があれば、出来る限りご家族の意向に沿うよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、細かなカンファレンスを行ない、より深い内容の情報を得ている。毎月のケース会議により、日々更新される内容を把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の暮らしの現状を報告書に記録しそれをケース会議にのせ、その決まった内容をケアプランに記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員、各医療機関との報告、相談、連携により、日々見直し、変更と個々の情報をチーム間にて共有し、医師からの意見、日々を一緒に過ごしている職員間の会議、ご家族の意見をまとめ、よりよい介護を行なえるよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン見直しは期間内だけではなく、突発的に起こった事態へも、その変化にあわせ対応し、要介護認定の見直しも申請している。またご家族への連絡も、直ぐに対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけで、業務日誌、報告書、またその他のチェックシートを数種用意し、日々の小さな変化にも職員間にて連携し、それに伴った対応が出来るよう努めている。また、どんな些細な内容でも、棟責任者への報告が速やかに出来るように体勢を整えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの運営なので多機能性は備えていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	切り絵、書道、絵手紙(ボランティア)、消防団、お祭り(地元自治会)、獅子舞(季節のおり、催し物を依頼)、小学校の運動会の応援、保育園児の訪問、中学校体験学習、協力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者によりケアマネジャーが担当している場合は連携をとっている。福祉用具を利用する時はショップの福祉用具相談専門員に来棟してもらい相談をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では協働する必要性がない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、眼科、歯科、心療内科等の受診を、ご家族との連携を保ちながら日々、情報を共有しつつ対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の居住空間での、情報交換を行わない。また羞恥心への配慮を欠く行為を行わない。ケアプラン等の情報を入居者の目の届く場所に配置しない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>選べる状況を設けている。(お散歩、行事などへの参加の自由) また、希望に沿うように(入浴、食事等)支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、お散歩、居室やリビングにて過ごす、レクリエーション等の参加など、その人にあった生活を提案し、強制はしない。また、居室に閉じこもり、精神的に不安定になったりするような配慮をしつつ支援を行なっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>状況に応じて柔軟な対応を行ない、その人にあった整容が出来るよう配慮している。訪問による理容と、それ以外にご本人にあった整容の希望があった場合、ご家族に連携を図り対応している。化粧品等の購入は希望の品をおこずかいにより購入したり、ご家族に持参して頂いたりして対応している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑で栽培された農作物を収穫したり、調理、盛り付けなど入居者同士、職員が支援しつつ楽しみながら食卓が囲めるよう努めている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物、おやつなど、入居者個人の希望に沿ったものを楽しめるように配慮している。また入居時にたばこに関しては禁煙に賛同して頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日の排泄間隔の把握に努め、一人一人にあった自然な排泄が出来るよう支援している。また排泄覚醒により昼夜逆転が起きないよう医師との連携により、体調の管理に十分努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から入浴がしたい方がいれば、朝からでも入浴できる環境を整え、ご本人の気持ちを尊重し、入りたい時に入浴出来る様に支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠をとる事で昼夜逆転を引き起こすような事にならない限りは、その生活習慣に合わせた休息をとって頂く。またご本人に自覚がない場合(疲労がバイタル等の数値に表れている場合)、こちらから穏やかに休める状況をつくれるような配慮にも努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人の体調に十分な配慮をしつつ、その人にあった役割りをもって頂き、やりがいと自尊心を両立できるよう支援している。また、憂いを持たれるような時、自然とそれを解消出来るような配慮と共に生活する喜びを味わって頂けるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを持っている事の意識を入居者個人個人にもって頂き、その利用にはこちらで対応している。また外出の際、個人での別途利用をして頂き、それに伴う支援に努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出掛けたい希望には職員が日々支援を惜しまないように努めている。また個人的に外出したい時には、ご家族へ連携を図り対応して頂いたりしている。散歩に関しては、天候を考慮しつつ実施している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人での対応に関しては、ご家族に相談のうえ、職員もしくはご家族での対応にて実施している。その他はご友人と共に外出されたりする事もあり、その為の支援にも努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く事が出来ない(字を忘れていた)入居者にたいして、傍に寄り添いお手伝いしたり、電話での対応にも希望に沿えるよう柔軟な対応に努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の居室で、いつ如何なる時でも訪問に際して過ごせるように環境整備に努めている。また他入居者に気兼ねなく過ごせるように職員も配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由を制限する行為には注意するとともに、入居者同士による行動を抑制する行為にも配慮している。また自由な行動とそれに伴うリスクへの対処についても日頃から話し合いが行なわれ、見守り(注視)についても徹底して実施している。(他入居者の居室に無断で入り居室内の物品を荒らしてしまわないように。)		棟内に虐待についてのファイルを設けると共に、研修を行い研鑽している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居前にご家族へ、玄関の施錠についてはご理解を頂いており、単独外出における危険性を視野にいれた話し合いを常に行なっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室する際には必ず、声掛けとノックをしてから入室。ご本人が室外にいる時は、必ず入室する事を断ってから入ります。また時間毎の所在確認は徹底して行ない単独での危険な行為はないように配慮しております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪切り、かみそり、はさみ、針等是一時、お預かりし必要に応じて、介助、見守りを通して利用して頂いております。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	配薬のシステム化(誤薬防止為の確認)、食事姿勢への配慮と注意、転倒を防ぐ為の滑り止めのついた履物(靴下)、またリハビリやそれに沿う形での歩行訓練(お散歩)。施錠してからの再度確認。キッチンの火の管理の徹底。(火を点けたまま離れない、キッチンに利用者を一人にしない。)一つ一つの対応に細心の注意を払っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今の状態が全体の経過の中で、どの段階にあるのか、今後どのような事態が予想されるのか、毎月、会議の中で検討しその際の訓練を講習を受けて学んでいます。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の商店街、自治会の方たちとの連携により、防災訓練や避難訓練を実施しております。利用者、一人一人の避難の仕方から違うので、職員がその対応にあったやり方を学んでいます。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	お電話以外にも、お見えになった際には、その方の抱えているリスクについての報告、相談を適時、行なっております。その中でご家族の理想に沿う形で暮らせる環境作りを行なっております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎月の会議以外にも職員が気付いた情報は、即、ホーム長へ連絡、Drへの相談に関する内容ならば、その場で何うようにしております。その際に、ちょっとした内容でも利用者の訴えに沿う事で、安心感を得られるように努めております。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	DrやNs の往診に際して、薬状態だけでは判らない事を伺い、その内容も職員間で共有しております。また、症状による影響が疑われた場合には、直ぐにDrへ報告し対処への支持を仰いでおります。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	羞恥心に配慮した上で、一人一人にあった快適な排泄環境を提供できるように、常日頃からDrと職員間で話し合いをしております。また、毎朝のラジオ体操やお散歩、自然な排泄に導けるような食生活に配慮しております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には必ず、見守り、声掛けのもと、歯磨き(口腔衛生)をして頂いております。週二回の義歯の洗浄液消毒と、必要な方には歯科、歯科衛生士の往診を受けて頂いております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録する事で職員が全員、把握できるように努め、食事と水分の必要量が満たされるように配慮(管理栄養士が献立を作成)しております。また利用者の好き嫌いもありますので、利用者が食生活に不満をもたれない様に、ご家族にも支援して頂き、ストレスが溜まらない様に、外出先での食時もお勧めしております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出時、帰棟後(ご家族が来館されたおりに)には(排泄時、職員の見守りのもとで手指)手洗い、うがいを施行して頂き、定期健診、食後の口腔ケア、定時のタオル交換などを行い予防マニュアル(棟内にファイルあり)に従ったケアを実践している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2時間前の調理はしないという取り決めを職員が遵守し、夕食後には、調理器具の(タオル等も含め)消毒を行っている。また、食材に関しても地域の商店街より購入し、より安全な食材と鮮度に問題がある際の交換など柔軟な対応をもって食事を提供できる環境をつくっている。調理をする職員、入居者の衛生面での管理も適時、ソフトに対応している。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自然景観を大事にし、畑の作物や花壇、棟周辺の鉢植えなど、地域の方たちにも楽しんで頂けるように配慮し、出入りにも抵抗のない環境づくりを実践している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階建ての一階の為、少し天井が低く採光にしても、若干、他棟と比べて少ない事を職員、一人一人が理解しており、月々、その季節にあった装飾や掲示物を配し、入居者が季節感を感じる事ができる環境に熟考を重ね、入居者自身にも、そのお手伝いをして頂いている。また、その時々に行った企画などを分かり易く掲示する事により、潤いのある生活を営んでる事を感じて頂いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者、個人個人の席を設け、その時、気分にあった会話できる相手との好ましい環境を提供したり、またテレビ前のソファで、ゆっくり歓談できるような配慮もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への家具の持ち込みは自由にして頂き、暮らし易いように配置も自由にされている。また入居者の生活機能にあった家具が必要な場合、手配したりする事にも協力しより良い生活空間の提供をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓の開閉は入居者本人が自由に出来るようにしている。また、それ以外の施錠する事をご家族との間で決めた方の居室においては、朝の掃除の時間や午後の布団干しの出し入れの際、またご家族との外出の際、適時、開放している。共有空間においては、日中と午後を実施し、浴室、脱衣所、トイレは24時間換気を実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内の入居者が歩行される箇所には手摺が施され、他にもトイレ、脱衣所、浴室、浴槽、全てにある。また夜間時、自動センサーで点灯することにより、排泄覚醒の為にトイレにきた入居者の安全確保につながるような配慮があり、見守りにも役立っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者と職員の顔のボードを設置する事により、顔と名前を一致するように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスを歩行訓練される方の為に、動線に配慮したり、外周りには季節の花々を植え目でも楽しめる工夫をしている。畑にある作物を入居者自身で収穫してもらうことで季節感を感じてもらえるように配慮している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が文化的な生活を送れる事、意思と意欲を高めるように暮らす事、これまでの生活の延長線上に今を築く事、これらの事を機軸に毎月話し合う機会を設け実践しています。地域との連携、交流には長期的な視野のもと、閉ざされた環境にならないようなコミュニティを形成しております。また、職員間のストレスや人間関係、家庭内の事情など、職場内の環境の清浄化にも徹底した配慮をしております。これらを満たし、人が生活する上で一体なにかが大事なのかを、暮らす人、働く人が区別なく考えられる場所になるように私達は日々、研鑽しております。